

## 幼児の描画における模倣の研究 — 摂取した情報の質的検討 —

奥 美 佐 子

### I はじめに

幼児が描画の過程で他の幼児の絵を模倣するとき、対象となる描画には魅力ある情報が存在するものである。その情報は、摂取した個人の表現に反映されるだけに留まらず、その幼児から空間的に近い幼児の描画に取り込まれたり、近接するグループに移入されたり、稀にはかなりの距離を隔てて伝播する場合さえある。描画の模倣については、美的な魅力だけでなく、模倣する幼児が置かれた状況によって視覚的要件、空間的要件、人的要件が比重を変えて関与し、また、模倣の動機や契機が異なる場合もあるが、視覚的要件は幼児間の描画過程における模倣においても、最も重要な情報であると考えられる<sup>1)</sup>。

本稿では、幼児が模倣の対象として摂取した情報の中で、その後他に伝播し表現に反映された情報に注目して、その情報の特性について検討することにした。幼児が視覚的に見て摂取したいと思う情報の特性を抽出し、描画過程における模倣の実態を通じて、幼児にとって魅力ある造形的要素を見出したい。

### II 事例からの情報

#### 1 方法

模倣の事例は 1995 年から 2004 年までに収集したもので、対象年齢は 4, 5 歳児、協力していただいた園は、加古川市私立 M 保育園、大阪市私立 Y 幼稚園、茨木市私立 T 保育園、京都市私立 K 保育園、同私立 T 保育園、松阪市私立 S 保育園である。

収集した模倣の事例を Type 1~3 のタイプに分類し<sup>2)</sup>、内 Type 1, 2 について摂取し反映された情報を、造形要素の観点から検討したい。

3 つの類型とは、

Type 1: 描画開始期の情報ソース

Type 2: 表現ツールとしての情報収集

Type 3: 相互模倣を目的とした情報交換

である。Type 3 は視覚的情報を媒介にし、模倣度が極めて高いタイプだが、視覚情報がコミュニケーションツールとしてやり取りされることから、自己の描画表現へ反映される過程が異なると考えられ、Type 3 を除外し、Type 1、Type 2 を対象とした。

Type 2 は模倣の出現時間が遅く、自分の表現を開始し、継続している途中で情報を摂取したタイプである。表現のスタートで躓いたり、表現のプロセスで行き詰ったりしたのが動機となって問題解決を目的に情報収集したものではなく、視覚的な刺激、興味ある表現（造形要素）をそこに見つけ、摂取した可能性が最も高いタイプだと考えられる。

Type 1 は早期に模倣が開始されたタイプである。表現の内容や方法が見つけられず、その契機を近隣の幼児の表現から摂取したもので、コピーした幼児のイメージが視覚化された表現がそこにあって選択されたり、分かりやすい表現が採択されたりしており、幼児にとって興味深い或いは美的な情報ではあるが、契機が Type 2 とは異質であると思われる。

そこで、Type 2 を自発的な模倣、Type 1 を問題解決的な模倣として、両者の収集した情報を整理し、幼児が摂取する情報に特徴ある造形要素が見られるかどうかについて分析することにした。カテゴリーとする造形要素は、名古屋柳城短期大学紀要第 25 号<sup>3)</sup>において模倣と模写能力との関係を分析したときに使用した項目で、情報摂取の鍵となった形、色、構図を中心に検討する。ここでは模倣の対象になった描画または幼児をオリジナル、模倣した側をコピーと呼ぶ。

#### 2 摂取した「情報」

情報の「伝播」には、1 対 1 の情報の伝播と、

複数へ伝播した情報とがある。複数へ伝播した情報は、情報の共有または伝播しやすい要素があると推察できる。ここでは、まず複数伝播を例にとり、次に1対1の単発の情報伝播から、情報をセレクトすることにした。

#### 事例1 「なにがでてくるかな？」Type 1

対 象：大阪市私立 Y 幼稚園 5歳女児

期 日：2003年9月8日

描 画：パスによるスクラッチ

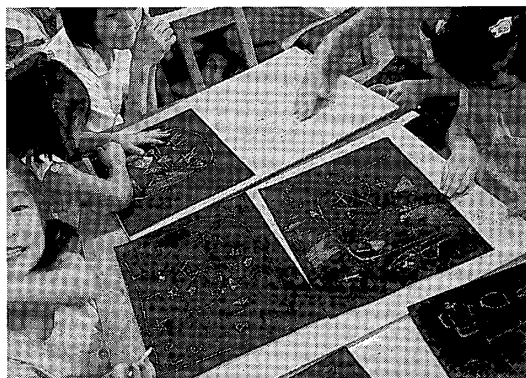


図1 事例1 オリジナル —— 一番手前の女児 ——

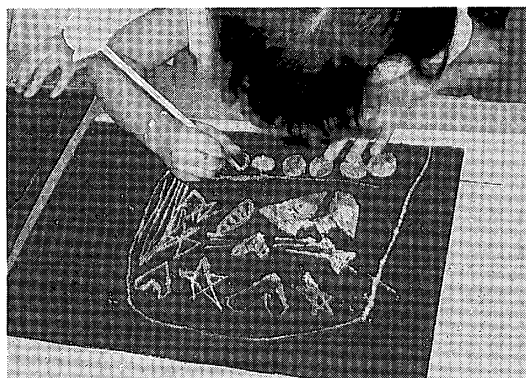


図2 事例1 コピー1

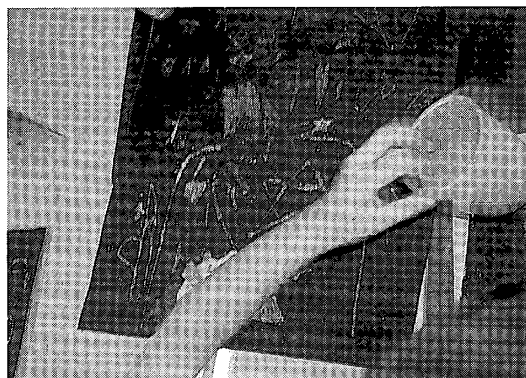


図3 事例1 コピー2

情報：スクラッチの技法を使用しているため、色彩については情報の対象にはできない。3人の女児による情報の伝播で、摂取した形は星のパーツ、構図のアイデアとして画面中心部を囲った線、その線で囲われた図の内部に引っ掻いて造った面である。星の形はコピー1と2がオリジナルから各々情報摂取した。画面中心部を大きく囲った形もオリジナルからコピー1, 2が各々摂取した線または構図のアイデアである。次に面の要素で、スクラッチで面を多用したのはコピー1である。コピー2はコピー1をオリジナルとして、面表現を摂取した。面の要素はオリジナルが使わなかった方法であった。オリジナルは線のみで表現しており、線は一定で描画技術が高い。コピー1もスクラッチした線がオリジナルより太いので繊細に見えないが、乗り物に仕立てて車を下部に描き、引っ掻いた面の美しさはこの女児の技術の確かさを示す。コピー2は前者2名と比較すると描画技術がそれほど高くなく、模写能力も星型の模倣からも推測できるように前2者より低いと考えられる。

この3者には人間関係における力関係や同一視の対象としての関係性はない。コピー2については、模倣をよくする女児で「美しい」という対象があればそれを捉えて模倣するということである。

#### 事例2 「どんなお家に住もうかな」Type 2

対 象：京都市私立 T 保育園 5歳男女児6名

期 日：2003年10月10日

描 画：コンテの線・面による空想画

情報：ほし組16人がお友だち全員と担任の保育者が住む家を、多層階の建物を想像して描いた。このクラスは年間を通じて模倣が極めて少ない。幼児の座位は自由であるが、何故か本時は2列の横並びに座った。模倣の情報は描画の後半の時間に、6人の幼児の間で伝播した。オリジナルは男児(図4)で、コピー1は女児(図5)、コピー2-1~3は3名とも女児(図6-1~3)、コピー3は男児(図7)であった。情報は「ポスト」で、オリジナルの幼児が「ポストがいる」と言葉でつぶやき自分の絵に描きこんだ。その言葉をコピー1の幼児が聞き自分の絵にポストを描いた。次にコピー2(1~3)の3名の幼児がコピー1のポストを視

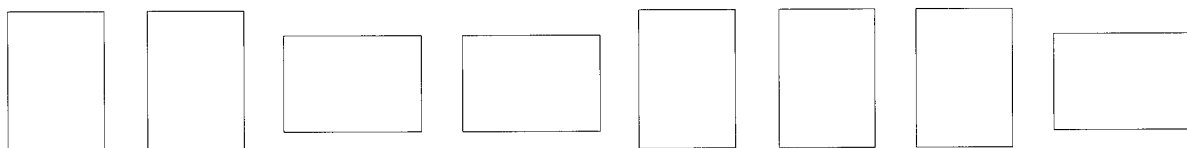


図 5 オリジナル 図 6 コピー 1

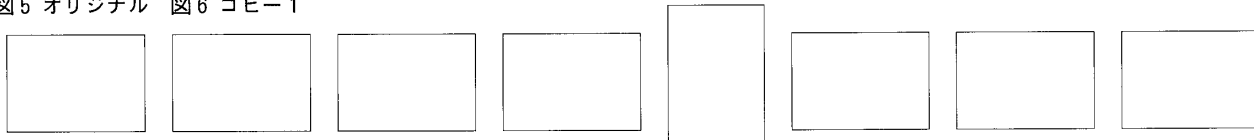


図 10 コピー 3 図 7 コピー 2-1 図 8 コピー 2-2 図 9 コピー 2-3

図 4 幼児の座位

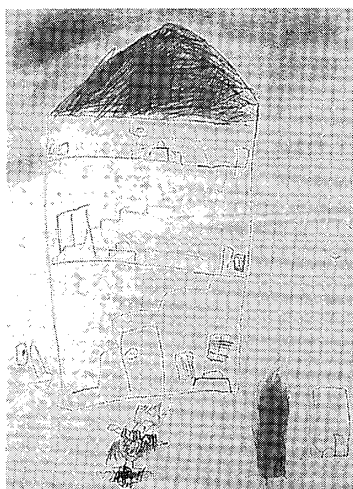


図 5 事例 2 オリジナル

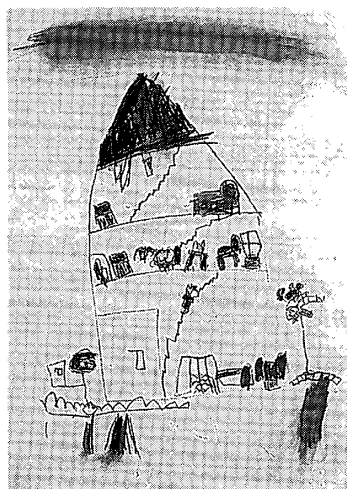


図 6 事例 2 コピー 1

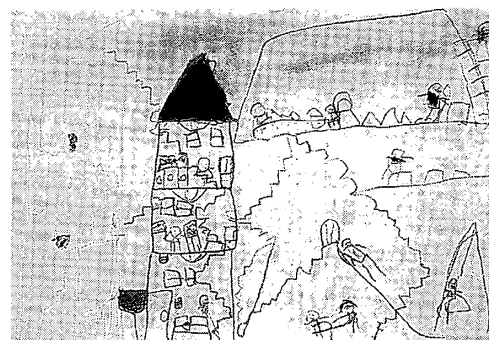


図 10 事例 2 コピー 3

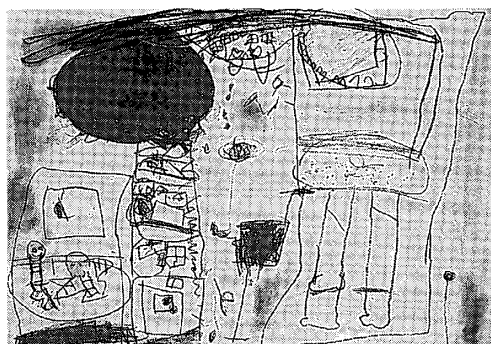


図 7 事例 2 コピー 2-1

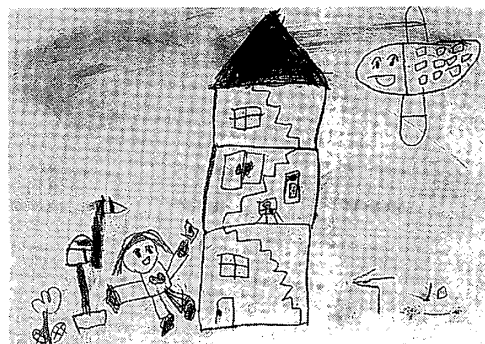


図 8 事例 2 コピー 2-2

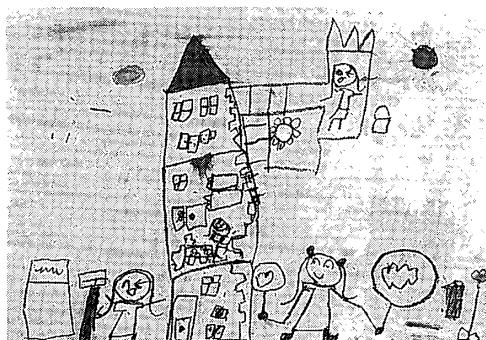


図 9 事例 2 コピー 2-3

覚的情報として摂取し、自己の描画に反映した。

“ポスト”というパーツはコピー 1 からコピー 2 へ伝播された時と同様にフォルム、構図、色彩ともにコピー 2 からの視覚的な影響は極めて少ないように見えた。どちらかと言うとフォルム、構図、色彩ともにコピー 1 からコピー 3 へ情報摂取されたように見える。同様に言えば、オリジナルとはどのコピーも視覚的には似ていないともいえる。

この事例を模倣度に照らし合わせる必要があろう。情報として摂取したパーツを自分の描画に反

映するまでの間に、その視覚的な情報を幼児のなかで何らかの処理を行っているかどうかについて検討する必要性が浮上したものと考える。また幼児は、情報を視覚から摂取するだけでなく、言葉からも摂取し自分の描画に反映する事実をオリジナルからコピー 1 への情報伝播で確認することになった。

### 事例 3～5 「卒園アルバム」

同じ期日の活動で出現した 3 組の模倣事例から  
事例 3 「卒園アルバム：お風呂」Type 1

対 象：京都市私立 K 保育園 5 歳女児 2 名

期 日：2002 年 12 月 24 日

描 画：黒の油性マーカーによる線描と、絵の具による着色。1 人表裏 2 枚を描く。テーマは「思い出、好きな絵」

情 報：卒園記念アルバムの表紙と裏表紙に絵を描く。オリジナルの幼児が描いたお風呂の浴槽、浴槽のチェックの模様、床面とタイルの線、ドア、浴槽から上がる湯気などのパーツとそれらの配置＝構図をコピーの幼児は摂取し、自分の描画に反映

した。お風呂に入っているのは、オリジナルは蛇が 2 匹で頭にタオルを載せており、コピーはウサギが 2 匹でタオルはない。

パーツと構図のほとんどをコピーはオリジナルから情報摂取したが、着色した色彩はすべてのパーツに渡って別の色を使用している。浴槽のチェック模様やタイルの目地をオリジナルは丁寧に端から端まで線が描いている。コピーは斜めのチェックとタイルの縦横の線を模倣しているが、線を描き込んだに過ぎない印象を与えている。コピーの幼児はオリジナルより、ものの形状を捉えて観察的に描き表わす力は多少劣るが、ドアの表現を見る限り、オリジナルの幼児より描写能力が格段に劣るとは考えられない。また、オリジナルが描いた浴槽に入っているものの頭にあるタオルや、タイルや床にある椅子、洗面器、シャンプーセットなどの微細な描写はコピーにはない。アイデアがオリジナルは経験に基づいたものであり、コピーは視覚的な刺激によるものであるという、描画に至る動機付けの相違が描画の質を変えたともいえる。裏面は両者とも、好きな動物や遊びを描いており、一部にオリジナルからコピーした蛇のフォルムが描き込まれている。この両者については、日常的にともに行動する、力の上下関係があるなどの条件は見当たらないということである。

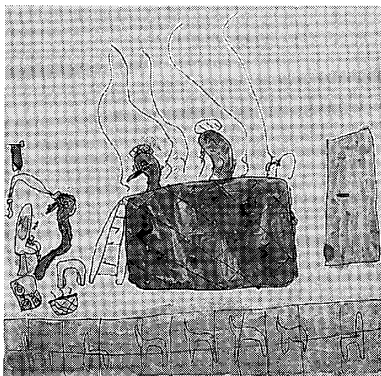


図 11 事例 3 オリジナル

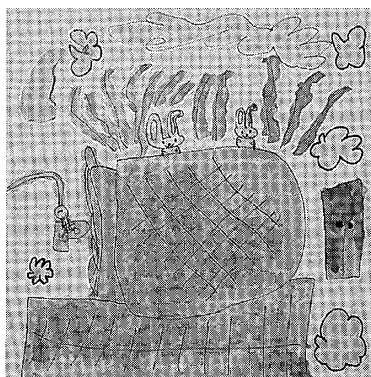


図 12 事例 3 コピー

### 事例 4 「ジェットコースター・観覧車」Type 1, 2

対象児：京都市私立 K 保育園 5 歳男女児 3 名

期 日：2002 年 12 月 24 日

描 画：事例 3 に同じ

情 報：事例 4 ではオリジナル（女児）からコピー 1（男児）、オリジナルからコピー 2（女児）へ伝播した。オリジナルとコピー 1 は同じグループである。伝播した情報はジェットコースターの軌道と観覧車、太陽のフォルムと構成である。オリジナルの幼児は遊園地へ行った経験から、その内容を描いた。コピー 1 は視覚的な情報摂取をし、オリジナルから主としてそのフォルムを反映した。事例 3 のお風呂の絵と同様に、個人的な経験から描いた描画であるオリジナルの表現にはコピーはかなわない。色彩については、コピー 1 は太陽以外にオリジナルと全く別の色を用いている。

コピー 2 はオリジナル、コピー 1 に隣接するグ

ループの幼児である。コピー 2 は表紙を描き終えたあと、オリジナルの描画に気付き裏表紙にオリジナルから摂取した情報を反映したと考えられる。ジェットコースターの軌道を情報として摂取しているが、オリジナルが 1 つの山を形造っているのに対して、コピー 2 は 2 つの山を造った。色彩はオリジナルとは異なり、オリジナルが線的に絵の具を塗っているのに対して、コピー 2 は面的に塗っている。軌道に隣接するように左下に描かれた動物園のエリアも、コピー 2 ではそれらしい形象と

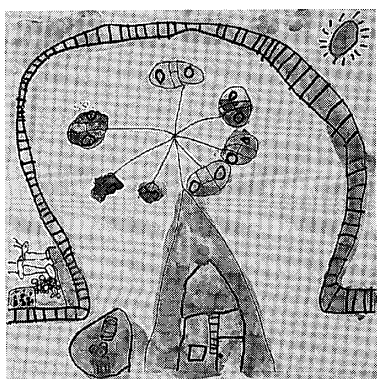


図 13 事例 4 オリジナル

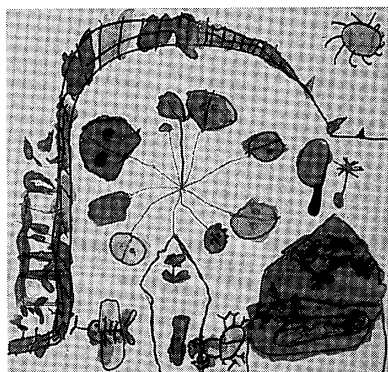


図 14 事例 4 コピー 1

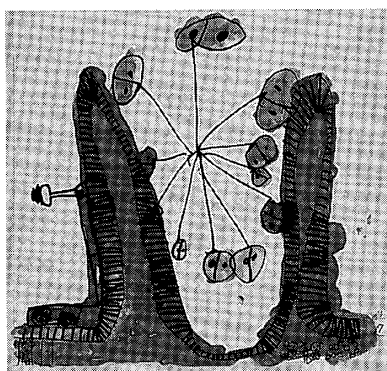


図 15 事例 4 コピー 2

人間の顔らしい形として表現した。コピー 2 が反映したフォルムは、オリジナルとの位置が向かい側に当たっていたことに起因するとも考えられる<sup>4)</sup>。また、観覧車はジェットコースターの軌道のフォルムに阻まれて下部の建物が描けず、上部の象徴的な部分のみ描いた結果となった。

事例 4 では、象徴的なフォルムや線が情報として摂取された。大きいパーツを摂取した場合、これらで構成する構図も模倣した形になる。色彩については反映されているとはいえない。視覚的な興味で摂取した情報はフォルムやデザインが正確に反映されるとは限らない。自分の都合のよいように変更したり、省略したりすることもある。色彩は反映の対象になっていないかのようだ。

#### 事例 5 「ひよこ」 Type 1, 2

対象児：京都市私立 K 保育園 5 歳女児 2 名

期 日：2002 年 12 月 24 日

描 画：事例 3 に同じ

情 報：2 人の女児の間で模倣が出現した。オリジナルは表紙に 33 羽の山吹色のひよこを並べた。裏表紙にも 13 羽のひよこがいるが、ウサギやチョウチョも描かれている。コピーの女児は表紙には独自の表現でカブトムシ、多数のチョウチョ、ハチなどを二次元空間に描いた。裏表紙ではオリジナルのひよこをモチーフとして摂取、147 羽を描いた。同一の方向を向いたオリジナルとは異なり、異方向を向いたひよこや移動したことを足跡と矢印で示した表現、カップルのひよこなどの描写がある。また、147 羽のひよこの間に馬やライオン、ウサギが描かれた。コピーの幼児は 1997 年 8 月生まれ、オリジナルは 1998 年 3 月生

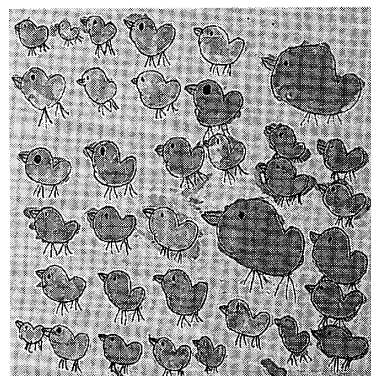


図 16 事例 5 オリジナル



図 17 事例 5 コピー

まれである。このケースは発達的な影響もあるかもしれないが、コピーの幼児の描写能力はオリジナルを超えている。

摂取した情報はひよこのフォルム、デザイン的な構成、量産的なパターンである。色彩はひよこの固有色である山吹色を踏襲した。

### Ⅲ 検討

セレクトした事例 1～5 と、幼児の描画過程に出現する模倣の研究で使用した 10 の事例を対象に、伝播する情報の質的検討を行うことにする。

表 1 事例 1～5 の模倣度 2004 年度作成

観点/事例	A みみずく	B りんご	C りんご	D 魔女	E 魔女	F 魚	G ラッパ	H オニ	I 魚	J たね
時間	5	5	5	5	5	5	1	3	3	5
構図	5	5	3	5	5	5	1	1	1	5
コピーの質：フォルム	5	5	1	3	5	3	5	3	1	5
：色彩	5	5	5	3	5	3	1	1	1	3
：描画材	5	5	5	5	5	3	5	5	3	5
：位置	5	5	1	5	5	3	1	3	1	5
加工の有無	3	5	5	3	5	3	1	3	1	3
描画の展開	3	3	3	1	3	3	5	1	1	5
情報の種類	5	5	5	5	3	5	5	5	5	3
合計ポイント	41	43	33	35	41	33	25	25	17	39
模倣度	91.1	95.6	73.3	77.8	91.1	73.3	55.6	55.6	37.8	86.8

表 2 事例 1～10 の模倣度 2002 年度作成

観点/事例	1 スクラッチ		2 みんなの家			3 アルバム・1	4 アルバム・2		3 アルバム・3
	①O→C1	②O,C1→C	①O→C1	②C1→C2	③C2→C3		①O→C1	②O→C2	
時間	5	5	1	1	1	5	5	5	5
構図	5	5	1	1	3	5	5	3	3
コピーの質：フォルム	3	3	1	3	3	5	5	3	3
：色彩	5	5	1	1	1	1	1	1	5
：描画材	5	5	5	5	5	5	5	5	5
：位置	3	3	1	3	3	5	5	3	3
加工の有無	3	3	1	1	3	3	3	3	1
描画の展開	1	3	1	1	5	3	3	5	1
情報の種類	5	5	1	5	5	5	5	5	5
合計ポイント	35	37	13	21	29	37	37	33	31
模倣度	78	82.2	28.9	46.7	64.4	82.2	82.2	73.3	68.9



## 1 摸倣度

幼児の描画過程における摸倣の度合いを点数化して示したものが摸倣度である。摸倣度は本学紀要 24 号、第 55 回日本保育学会研究論文集に発表したもので、次のカテゴリーを有する。

- ① 時間 (初期; 5、中期; 3、終期; 1)
- ② 構図への影響 (ほぼ 100% (左右反転の場合を含む); 5、複数部位; 3、単体; 1)
- ③ コピーの質
  - フォルム (相似; 5、やや相似; 変形; 1)
  - 色彩 (相似; 5、やや相似; 3、変化; 1)
  - 描画材 (同種; 5、ある程度同種; 3、変化; 1)
  - 位置 (同位置; 5、やや変化; 3、変化; 1)
- ④ 加工の有無 (意図的な加工はない; 5、若干あり; 3、あり; 1) \* ③の変形等より意図的なもの。
- ⑤ 描画の展開 (なし; 5、ややあり; 3、あり; 1) \* 情報摂取後、描画に独自の展開があった場合。
- ⑥ 情報の種類 (視覚的情報; 5、遊びのツール; 3、イメージ形成の情報; 1)

以上のカテゴリーで事例 1~5 の摸倣度を算出した結果、事例 1, 3, 4, 5 の摸倣度が 73.3~82.2 と高く、事例 2 の摸倣度が低いことが分かった。摸倣度が示す数字と幼児の摸倣行動から、事例 1 は Type 1、事例 2 は Type 2、事例 3~5 は Type 1 であると判断した。事例 1~5 の摸倣度を示した表 1 と、以前の研究事例である事例 1~10 の摸倣度を示した表 2 に挙げた。

## 2 カテゴリーからの検討

表 1、表 2 のカテゴリーから、伝播する情報の特質を、構図・フォルム・色彩・描画材・配置 (位置) の観点について検討する。また、造形要素として、点・線・面などの要素についても検討素材としたい。

表中にある時間・構図・フォルム・色彩・描画材・位置 (配置)・加工の有無・描画の展開・情報の種類の 9 つのカテゴリーについて、2004 年分 (表 1) では 9 つのケースの、2002 年分 (表 2) では 10 ケースの合計得点のアベレージをとり、グラフに示した (図 18、19)。ここでは構図・フォルム・色彩・描画材・位置 (配置) の項目につい

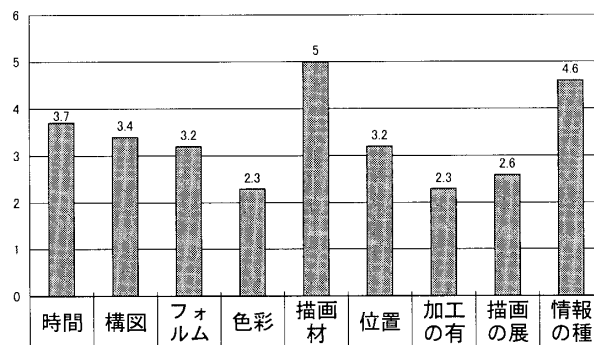


図 18 摂取した情報に含まれる要素 2004

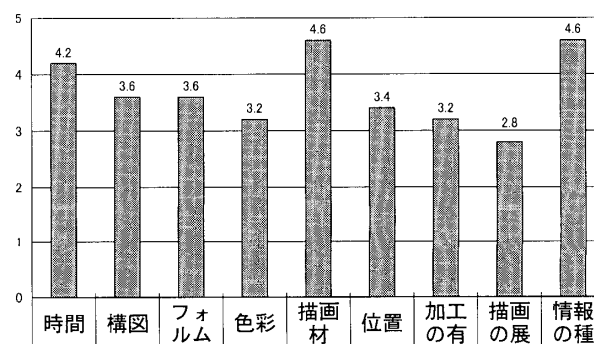


図 19 摂取した情報に含まれる要素 2002

て数値が高いものから順に検討する。

2004 年 5.0、2002 年 4.6 と、ともに数値が高いのが描画材の種類である。これについては活動の環境構成に影響が大きく、使用すべき描画材がその活動に必要なものが準備されていて、選択する余地が極めて少ないことがあげられる。得点が低い I「魚」でもパスと絵の具の 2 種であった。この項目についてはアベレージの数値が、情報が発信する魅力のレベルの高さを表しているとは言いが切れないと考える。環境構成によって条件が異なることを考慮する必要がある。

構図では表 1-9 事例が 3.2、表 2-10 事例が 3.6 でフォルム 3.6 と同じアベレージであった。

表 1-9 事例ではフォルムが 3.2、位置も 3.2 で同アベレージであり、表 2-10 事例で位置は 3.4 であった。表 2-10 事例における事例 7 (図 20、21) に見えるような、コピーがオリジナルから自分と異なる表現ツールを移入し、描画にはめ込んだ場合などを除いては、フォルム、構図、位置は相互に関連した情報として摂取されると推察できる。この 3 者ではフォルムのアベレージが最も高いと予想していたが、構図と同値、または構図が

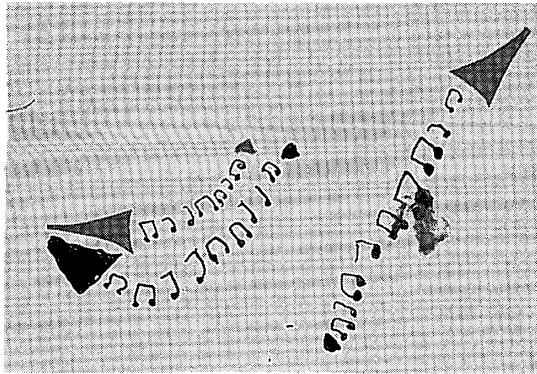


図 20 2002 年度作成 事例 7 オリジナル

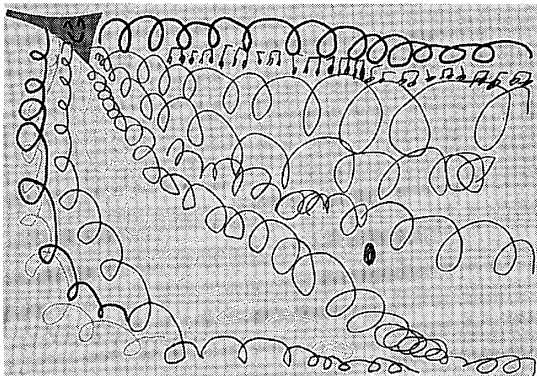


図 21 2002 年度作成 事例 7 コピー

若干高い結果であった。描画空間における全体の構成は表現全体の印象を決定する要因であり、フォルムはそれを支える要素である。このことから描画全体の構成から受ける刺激は大きいと言える。配置がフォルムと同等の数値を示したのも、摂取したパーツをオリジナルと同様の位置に描かないと情報摂取のモチベーションを喚起したオリジナルの表現に近づくことがないということであろう。

4 項目中最もアベレージが低いのが色彩で、表 1-9 事例 2.3、表 2-10 事例 3.2 であった。幼児にとって色彩の刺激が強いと予測したが、結果的には低いものであった。2004 年度作成事例 3 アルバム 1 におけるお風呂の構図や個々のフォルムの得点は高いが、色彩は全く異なる事例のように、幼児がオリジナルから摂取したパーツを自分の描画に反映したとき、そのパーツのフォルムや配置、構図がほぼオリジナルを踏襲した場合であっても、色彩は自由に使用されていた。

色彩が高得点を得たのは、Type 2 より Type 1、自由画よりテーマのある場合、自由画ではひよこのような固有色が明快なパーツである場合や

経験を共有し、摂取したパーツの色彩についての知識がある場合である。

### 3 興味ある情報

描画過程で模倣が出現するとき、幼児は自分のごく近隣の他児の描画から情報を摂取していることは、これまでの事例から確認できたことである。幼児が摂取する興味ある情報に共通の特徴が見出せると考え、構図・フォルム・色彩・描画材・位置（配置）について合計 19 事例を検討し、オリジナルからコピーへの反映の度合いが高いカテゴリーが幼児にとって最も興味ある情報の要因だとして結果を導くと、図 18、19 からは

- 1) 描画材がオリジナルからコピーへの反映の度合いが高く、数値からは最も興味ある要因だと考えられる。
- 2) 構図・フォルム・位置については相互に関連があり、興味の数値は描画材に続いて高いと考えられる。
- 3) 色彩は、視覚的刺激が強いと思われたがこの 5 つのカテゴリーの中では反映された数値が最も低い。

と考えられる。しかし、前節の検討からも分かるように必ずしも数値の順位通りには読み取れない。描画時の環境構成等、保育の条件を考慮する必要があることは明らかである。1)～3) において勘案すべき事項についてさらに、Type 1 と Type 2 を比較する（図 22）とともに、描画の題材を比較した結果（図 23）を加味して、以下の事項を付加する。

- 1) では：単一の描画材のみ使用した場合はオリジナルとコピーの描画材は 100% 同じものである。
- 2) では：3 つのカテゴリーの相関は模倣の Type により異なり、Type 1 は 3 項目とも高く、Type 2 は低い。
- 3) では：Type 1 については色彩の数値は高く、Type 2 はそれほど高くない。描画にテーマが設けられた場合は比較的高く、自由課題については数値が低い。パーツを摂取した場合、固有色を知っている場合や、経験を共有したものの色彩は同様のものを使用するが、そうでない場合は全く異なる色彩を使用すること



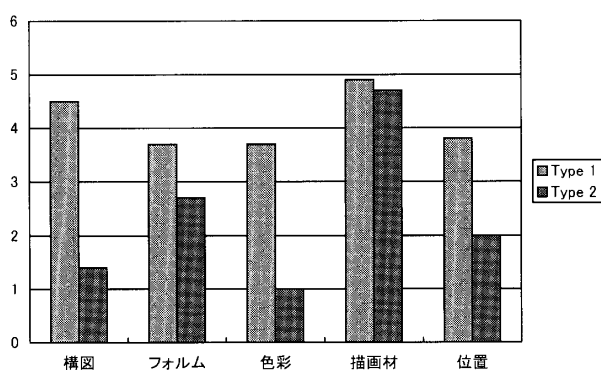


図 22 興味ある情報：Type 1 と Type 2 の比較

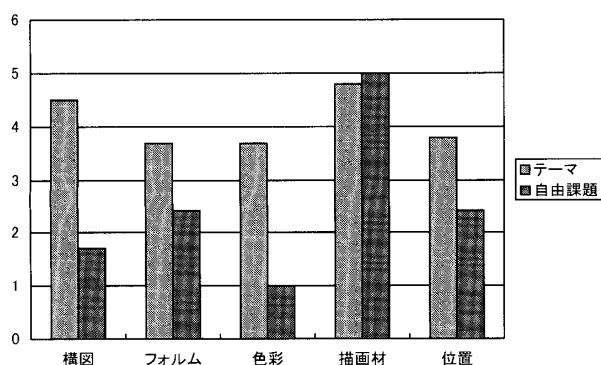


図 23 興味ある情報：描画の題材による比較

が多い。

以上のデータから、構図・フォルム・位置（配置）から描画の構成についての情報が摂取された情報としては多数を占め、比較的兴趣が高いものと考えられ、色彩は構図・フォルム・位置（配置）ほど関心をもって摂取する情報にはなっていないと言えるだろう。

#### IV 摂取した情報と幼児のイメージ

幼児が描画過程において模倣をするとき、色彩よりフォルムや構図を情報としてより正確に反映したことから、興味の高さも同様であり、魅力ある造形要素だと結論付けたが、検討の過程で浮かび上がった課題について検討しておく必要がある。それは、「子どもは興味ある情報を如何に選択するか」ということである。この問いに対しては、「幼児の描画過程における模倣の研究—模写能力から考える—」等<sup>5)</sup>で一つの結論をすでに導いている。そこでは、視覚的要件・空間的要件・人的要件が情報選択に関与しており、その中で視覚的要件が描画の画面に最も直接的に関わる要件として重要である。視覚的要件は、

- ・大きくて明快なフォルム
- ・自分の表現にないおもしろい、興味あるフォルムのパーツ
- ・順序よく、パーツを描き足していくプラスチックな描画

であった。情報は選択され、わかりにくく複雑なフォルムや構図、テーマのある描画の場合はテーマに合わないものは選択からはずされていた。

ここで、幼児の情報選択における新たな課題は、「テーマに合わないものを選択からはずす」ことや、オリジナルの描画に描かれた多くのパーツから「使いたいものを選択する」ことをしている状況をどのように考えるかということである。また、視覚のみならず聴覚による情報収集をし、言葉を形にして描画に反映した例があった。この事実から、幼児が情報を摂取する時に情報の選択が行われており、テーマにあわすことや、描画の展開に見合った情報を選択している傾向にあった。ここでは、テーマや文脈に沿った情報の摂取が行われたと見られ、幼児が自分なりのイメージをもって情報を選択し摂取したと考えられる。

2002 年度作成の事例では事例 1～9 に、2004 年度作成の事例では事例 2 でテーマや文脈に添った情報の摂取が行われており、子どもはイメージをもって模倣の対象を選択し、決定していたと考えられる。

ところで、「イメージ」という言葉のイメージは拡散していると言う。日常的に使用されている範囲で「知覚に付随して知覚場面にはたらくフレームというべきもの」と「想像と同義にあつかわれ、現実に目の前には存在しないものや光景の視覚像を脳裏に描き出すこと」という 2 種の意味をもつ。造形の世界では、すでに頭の中に蓄えられている素材としての記憶を組み合わせ、新たに想像することを示し、上記の後者に重ねうる<sup>6)</sup>。幼児が情報摂取に先立って描くイメージは後者の意味に極めて近い。

H. リードは芸術とは「人間の体験における有意義なものの、一かけらずつの認識であり、そのたゆまぬ定着であり」、「芸術のいとなみは、感情の無定形な領域から、有意味或いは象徴となる形態の晶化であるとのべてよい」と言っている<sup>7)</sup>。太古、自然の中に散らばってある形を抽象化する

ことで、繰り返し描き認識することが一般的に可能となり、イメージ化できたといわれる。人間の営みのはじめに、イメージが共有できる形象として認知された。これは幼児が模倣の情報を選択するとき、色彩よりフォルムに関心をもったことと何らかの関連性を見ることができるように思う。

## V おわりに

幼児の描画過程で摂取する情報は視覚的なものだけでなく、聴覚から入る言葉からも行われることがわかった。また、幼児は描画時にその場で見つけた興味ある情報をむやみに摂取するのではなく、フォルムや構成等の造形要素に魅力を感じたり、テーマや自分の描きたいイメージをもって情報を採ったりしていたのである。幼児がイメージをもって模倣の情報を摂取し、自己の表現に反映したことは、模倣する幼児の、表現に対する意思をそこに感じるというのは言い過ぎであろうか。

## 【注および引用文献】

- 1) 奥美佐子「幼児の描画過程における模倣の契機」『第57回日本保育学会研究論文集』日本保育学会、2004、pp.138, 139 参照
- 2) 奥美佐子「幼児の描画過程における模倣の力」『第55回日本保育学会研究論文集』日本保育学会、2002、pp. 450, 451、「現代美術と幼児の造形における模倣のスタンス」『名古屋柳城短期大学紀要』第23号、名古屋柳城短期大学2001、pp. 57~71 参照
- 3) 奥美佐子「幼児の描画における模倣の研究 — 模写能力から考える —」『名古屋柳城短期大学紀要』第25号、名古屋柳城短期大学2003、pp. 51-65
- 4) 前掲書「幼児の描画における模倣の研究 — 模写能力から考える —」参照
- 5) 前掲書「幼児の描画における模倣の研究 — 模写能力から考える —」参照
- 6) 藤沢英昭・小笠原登志子『造形とイメージの心理』大日本図書、1979、pp. 9, 62
- 7) H. リード、宇佐美英治訳『アイコンとアイデア』みすず書房、1957、p. 8

## 資料 2002 年度作成 10 事例

Type	各 事 例 の 情 報
Type 1	事例 1【ぷっぷみみずく】(1998 年 3 月、To 保育園 5 歳児、テーマ：お話の絵、描画材：共同絵の具・コンテ)『ぷっぷみみずく』を読み、印象に残ったところを描く。幼児は 4 グループに分かれて、画板で描く。隣接する 2 つのグループにいる 2 人の幼児の間で模倣は行われた。オリジナルの幼児が 70%程度描きおえた時点で、コピーの幼児が模倣を始めた。オリジナルのフォルムは視覚的に明快なものであった。パーツ、フォルム、色彩、構図、描画材ともにほぼオリジナル通りに描く。みみずくの斑は、オリジナルのように塗り重ねず、斑の部分塗り残しておき、後で点を描き込んだ
	事例 2【おばけりんご】(1995 年 2 月、M 保育園 4 歳児、テーマ：お話の絵、描画材：共同絵の具・マーカー)『おばけりんご』のお話を素話で聞いて、絵を描く。幼児は 5 グループに分かれて、画板で描く。情報の摂取：模倣は描画の初期段階から始まった。模倣は 5 グループすべてに出現し、グループ単位で同グループ内に伝播した。摂取した情報は、まねしやすい明快なフォルム(全体的な構図、座席が近く見やすいものなどの条件で選んでいることがわかる。事例 2 は取得したフォルムと構図、サイズ、色等が見事に模写された。
	事例 3【おばけりんご】(1995 年 2 月、M 保育園 4 歳児 テーマ：お話の絵、描画材：共同絵の具・マーカー)事例 3 では、対角線上の幼児が模倣関係にある。各パーツ、色などは模倣しているが、座席の位置から見えたまま描いた(写真 4 の c7 と c5 の関係を参照)ので、最終的には構図が 90 度ずれた。オリジナルを模写し切れなかったとみられる。お話を展開した部分は独自の表現が広がり、模写能力が十分でない幼児ほど独自の表現へ向かうタイミングが早かった。
	事例 4【魔女】(2002 年 7 月 30 日、To 保育園 5 歳児)では事例 4、5、模倣が見られた。描画はお泊り保育のときに遭遇した魔女を思い出して描くというものである。テーマ：空想の絵、使用描画材：墨汁、絵の具、コンテ事例 4 は絵の具のターンテーブルを囲んで座った 4 名の男児の描画開始直後、魔女の顔と帽子、衣装を含む全身、魔法の棒の表現に出現した。帽子の表現と描画の進行速度から見ると、2 名ずつの模倣関係とも考えられるが、相互模倣を目的とした情報交換 (Type 3) にみられる遊びのツール化には至っていない。この場合、オリジナルとコピーの関係は事例 1、2 の事例に比べて薄い。魔女の顔と帽子、衣装を含む全身、魔法の棒のフォルムと大きさは 4 名ともほぼ同様、したがって基本的な構図は変わらない。線・面の表現は墨汁部分ではほぼ同様であるが、コンテの色彩と線・面で表現は各自の展開が見られる。
	事例 5【魔女】条件は事例 5 と同じ。事例 5 は 2 人の女兒による描画開始初期からの模倣である。コピーはオリジナルの描画に多少の時間がずれて進んだ。魔女のフォルムと大きさはほぼ同じ、したがって構図は同じである。線・面の使い方は同様、コンテの色彩については一部左右が反転していたが、ほぼ同様の色を選択した。この場合は 2 人の幼児が途中から意識して相互模倣をしていたので、Type 3 と考えられる
	事例 6【にじ組のみんなが乗れる船を描こう】(2002 年 7 月 19 日、K 保育園 5 歳児、テーマ：空想の絵、使用描画材：パス・絵の具)では、描画の初期からコピーが始まり、各種パーツ、特にジャンプする魚を弓なりにそらせて描いたものが印象的である。構図は大変似ている。オリジナルはパス、コピーは絵の具とパスである。オリジナルは 2 匹、コピーは 1 匹。
Type 2	事例 7【音を描く】(2000 年 10 月、Ta 保育園 4 歳児テーマ：きっかけ、描画材：マーカー)きっかけとして小さいトランペットに見立てた紙を貼り、そこから聞こえる音、または音楽を視覚化して描く。幼児は、音を点、各種の線、音符、花や蟹の絵、各種の記号で表現した。模倣は描画の最終段階で行われた。音を螺旋で表した幼児が、情報=音符(写真 5)をキャッチした。摂取した音符を描き込む。しかも、オリジナルが間違った 8 部音符の撥ねの向きを修正している。色彩、全体の構図への反映はなく、パーツとして取り込み、表現に組み込んだと見られる。
	事例 8【オニの仲間】(2001 年 2 月、M 保育園 5 歳児)ではオニのベルトのバックルが描画の中期以降に伝播し、グループを超えて情報が伝わった。情報はバックルのフォルムで、事例 7 と同様パーツとして取得し、色彩や大きさは変化させていた。全体の構図への影響はない。テーマ：空想の絵、使用描画材：パス、絵の具
	事例 9【にじ組のみんなが乗れる船を描こう】(2002 年 7 月 19 日、K 保育園 5 歳児)の 2 例目。描画中期に魚がジャンプする時間表現を数匹の魚を続けて描くことによって示した。オリジナルから表現方法を取得した 2 人のコピーは、色彩、フォルムを加工しており、構図には独自性がある。オリジナルの描画材はパス、コピーは 2 人ともパスと絵の具である。テーマ：空想の絵、使用描画材：パス、絵の具
Type 3	事例 10【お花が咲いた】(2001 年 8 月、S 保育園 5 歳児、テーマ：きっかけ 描画材：共同絵の具)種をまくつもりで小さな紙を貼り、そこから育つ花をイメージして描く。4 人の女兒が描画の初期から色、形、構図などを相談しあって描く。これが描画の最終段階まで続いた。模倣を遊びのツールとして意図的な相互模倣を継続した。最後に描いた花の表現に若干の違いがあるが、揃えて描いたという表現が最も近く、オリジナルとコピーの関係は希薄である。

## **A Study on the Imitation in Children's Drawings**

### **— Qualitative Examination of the Information Taken in —**

Oku, Misako\*

本稿では幼児が模倣の対象として摂取し表現に反映された情報の特性について検討することにした。幼児が視覚的に見て摂取したいと思う情報の特性を抽出し、描画過程における模倣の実態を通じて、幼児にとって魅力ある造形的要素とは何かを見出したいと考えた。そこで、模倣度の算出表から構図・フォルム・色彩・描画材・位置（配置）の項目について数値が高いものから順に検討した結果、色彩は構図・フォルム・位置（配置）ほど関心をもって摂取する情報にはなっていないという結果を得た。また、幼児はテーマや文脈に添って情報を摂取しており、子どもはイメージをもって模倣の対象を選択し決定していたと考えられる。イメージは人間の営みのはじめに、共有できる形象として認知されたとされるもので、幼児が模倣の情報を選択するとき、色彩よりフォルムに関心をもったことと何らかの関連性を見ることができるだろう。

幼児が摂取した情報は、「視覚的に興味あるフォルム」と「イメージに合うフォルム」であり、そこには摂取した幼児の表現への意図が込められていると考えられる。

キーワード：模倣, 幼児の描画, 表現イメージ

---

\*Nagoya Ryujo (St. Mary's) College